

スーパーシート

「あの日、あの時……」

日東工器社長
小形明誠 (66)



省力・省人化技術で社会に貢献

社長にと声をかけていただき、一度はお断りしたが、創業者である会長の情熱、思いに打たれ、心動かされて社長への就任をお受けし2年が経過した。大変技術力のある会社で、主力製品には国内シェアが60%を超えるものもある。

社是に「開発は企業の保険なり」とあり、創業時の明日が分からないう時から、会長が生粋のエンジニアとして製品開発に力を入れてきた。併せて販売体制や管理体制の開発にも力を注いできた。また、経営方針に「社会への貢献」「従業員の幸福」「会社の発展」を掲げ、強い信念を持って、省力・省人化

技術を生かした製品を社会に提供し、産業界の発展と社会への貢献に努めている。

2年前の北海道胆振東部地震では、地元医療機関から緊急要請

があり、基幹病院に1・2キロという超軽量で電池でも駆動可能な携帯用たん吸引器「キュータム」を乾電池とともにお届けした。通常の吸引器はベッドに備え付けてあり重さも5キロ6キロだが、当社の小型ポンプの技術で軽量化し持ち運びを可能にした。乾電池でも動くのがこの製品の特長だ。2日間の停電が発生したが、ラジオで当社のキュータムの提供で子どもたちの命が助かったと報じられていたのを聞き、お役に立てたのだなとう

れしく思った。後日、苫小牧市長や札幌医大の学長から感謝状をいただいた。その時は会長に「よくやってくれた」と褒められた。

社長就任以来、従業員や取引先との対話を心掛けている。月に2回ほど従業員との誕生日昼食会を開催し、多くの拠点を回り、みんなの声を聞いている。従業員の良い提案は役員会で検討している。工場や販売のお取引先に対しても、世界を回りお話を聞いている。お話を聞いて分かったことは、製品へのお客様の信頼に加えて、従業員が何事にも真剣に取り組んでいるということだ。当社のことでは

あるがいつも感激している。この会社が日に日に好きになり、社員を誇りに思っている。

これから強化したいのは制御やITの分野、知財や法務の分野だ。当社の製品を開発や改良するのに5年、10年かかる。必死にやってきたのに、完成した途端にコピーされるケースがあり、海外でもプロテクトしなければならぬ。

コロナ禍に関して、中国・武漢で発生した直後に、「これは日本も大変な事になる。私を信じてほしい」と役員を説得して、さまざま取り組みを行った。今回の新型コロナウイルス感染症でも呼吸に苦しむ患者様のために緊急要請があり、これまでにキュータム約200台を26の医療機関や自治体に寄付し、合わせて当社グループでストックしていたマスク1万枚以上も多くの病院に寄贈した。

また、これに合わせて地域の雇用を守るため、地元企業様と特別商談会を行った。そして、従業員の健康を守るために2月末から在宅勤務を開始し、3月末に8割の在宅勤務を達成した。従業員の協力で心から感謝している。社是に製成品や事業を通じて社会や地域への貢献に取り組みしていきたい。

●おがた・あきのぶ

1954年生まれ。福岡県出身。慶応大経済学部卒。1978年に三菱商事入社。理事新エネルギー・電力事業本部長、理事環境インフラ事業本部長、リチウムエナジージャパン副社長を経て、18年6月から現職。趣味は旅行やスポーツ観戦。従業員には「失敗を恐れずチャレンジを」と話しているという。